



# つなぐ、 つむぐ 旅 鹿児島



Have a  
sustainable trip



# いつもの旅に、 未来につながるやさしさを。

楽しいだけの旅行もいいけれど、  
これからは、旅した土地の未来につながることもしてみたい。  
サスティナブルという言葉が生まれるずっと前から、  
地域で大変につないできたもの。  
そして未来へつなぎたいもの。  
南北 600km にわたる鹿児島の中から集めたら、  
人と地球にやさしい旅ができあがりました。  
もちろん、「おいしい」「ワクワク」「なるほど！」など、  
旅の醍醐味もたっぷり詰まっています。  
さあ、やさしいあたらしい旅へ出かけよう。



# 鹿児島

## つなぐ、 つむぐ旅

### 掲載スポットMAP



鹿児島は深海魚の宝庫

P.8



食

甑島



阿久根名物ばんたん

P.9



おくらの種から「おくら珈琲」

P.11



海にやさしい海苔

P.11



地域の食材をおいしく

P.11



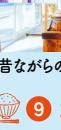
昔ながらの醤油の量り売り

★1



規格外フルーツのクラフトビール

★4



垂水かんばら「海の桜勘」

★5



フードロスから生まれたスピリット

P.13



郷土信仰玩具「鯛車」

P.13

4



### 特産品

#### 種子島

#### 西之表市



薩摩藩ゆかりの錫器

P.14



復活を遂げた希少な唐辛子

P.15



環境にやさしい芋焼酎

P.15



高校生が考えたフレグランス

P.15



焼酎が生みだす循環システム

★14



400年の歴史がある伝統工芸品

★13



自然に還る素材にこだわる

★15



温泉の蒸気で味わう

P.18



オリジナルのアロマが作れる

P.19



ecoKIRIでアクセサリー

P.20



火山灰のサンドアート

P.21



ガイドと巡るコアな桜島

P.23



霧島の森の中を歩く

P.25



食と人をつなぐホテル

P.26



生まれ変わった旧郵便局

P.27



阿久根の魅力が集う宿

ふたつや



旅人も地元の人もいっしょに

P.28



温泉旅館と和洋菓子店が一つに

P.29



宿も食事も古民家で

P.29

5

# つなぐ、 つむぐ旅 鹿児島



## 1 やくしま果鉢



こだわりは屋久島産の素材 P.10

## 2 けい水産★



屋久島の桜の木で燻製 P.3



## 1 屋久島里めぐり



新しい屋久島の魅力 P.22



## 2 西部林道



手つかずの森をガイドと P.24



# 奄美群島



ハブの皮製品からゲームまで P.12



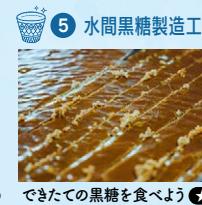
虹色に輝く半円型の真珠 P.15



島の暮らしをいきづくり織物 ★12



1300年続く織物にふれる ★11



できたての黒糖を食べよう ★10



自然由来のやさしいクレヨン ★9



世界自然遺産を歩こう P.24



知られざる与論島とは P.25



地元の人と一緒にきれいに P.23



島の暮らしを体験できる宿 ★21



島の自然と人が共生するリゾート P.27



沖永良部島



世界に一つだけの美ら玉づくり P.21



サトウキビから作るきくらげ P.10



国産の豆を使った自分焙煎体験 ★2

★はPDF版パンフレットで  
詳しく紹介されています。



## 体験



屋久杉の著作り体験 P.19



杉香るアロマスプレーづくり P.20

# 食べて未来へつなぐ

鹿児島の新グルメ発見!  
実はかなりおいしい「深海魚」。

鹿児島市



金目鯛、のどぐろ、ひめあまえび、めひかり。実はこれ、すべて「深海魚」だとご存知でしたか。なんと鹿児島の海は深海魚の宝庫なのです。底引き網で漁をする際、目的の魚以外にも一緒に獲れる魚がありますが、以前は値段がつかないという理由で捨てられていました。しかし、そのおいしさは、かごしま深海魚研究会によって実証済み。せっかくのおいしい魚を捨てるなんてもったいない!という想いから発足したのが、かごしま深海魚研究会による「うんまか深海魚」プロジェクトです。多くの人にその魅力を知つてもらうため、地域の料理店と一緒に活動し、今ではその輪がどんどん広がっています。唐揚げや煮付け、お刺身やかき揚げなど、深海魚のおいしさを新発見!深海の恵みを感じられる鹿児島の新しいグルメです。



このポスターがあるお店で深海魚を味わうことができます。



NANAKUBO WORLD

阿久根市

ぜんぶ使い切って、  
ぜんぶおいしい「ぼんたん」。

つなぐ  
食  
Food

阿久根市にある泰平食品のぼんたん工場。ここでは、1個のぼんたんを余すことなく使い切っています。白いわたの部分は鹿児島の伝統菓子「ぼんたん漬け」に。果実の部分はサイダーや刺した状態でスーパーへ。さらに表皮はオイルにしてポンタンアメの原料に。そもそも150年前にぼんたん漬けが生まれたのも、「捨てるのがもったいない」という理由だったとか。ぼんたんを大切にする心とおいしさは、今もしっかりと受け継がれています。



泰平食品

龍郷町 (奄美大島)

集落(シマ)との交流が始まる宿と食堂へ  
「あらば食堂」&「荒波のやどり」。

周囲を海やソテツ群生など大自然に囲まれた、5集落から成る荒波地区。あらば食堂と荒波のやどりでは、宿泊や食、交流を通じてこの地での暮らしを体験できます。食堂では集落のお母さん達がその家庭ごとの味で作る島料理を、宿では散策体験や交流を通じて集落に暮らすような滞在を楽しめます。土地の文化と暮らしを知り、未来につなぐ。荒波の食の恵みと自然、荒波を愛する地域の人との和やかな出会いは旅をより豊かにしてくれます。



あらば食堂  
&荒波のやどり





屋久島町（屋久島）

オーナー自らが育てるタンカンが、おいしいカフェメニューに。

屋久島の素材にとことんこだわる「やくしま果鈴」。看板メニューは、旬の果物のありのままのおいしさを味わえるスムージーです。お土産としてフィナンシェも人気。素朴でやさしい屋久島への愛を感じる一品です。



やくしま果鈴



和泊町（沖永良部島）

島育ちのサトウキビから生まれる、コリコリ食感&肉厚な「きくらげ」。

沖永良部島では、島内産サトウキビの絞りかすを発酵させ菌床にする自然の恵みをムダにしない方法できくらげを作っています。生きくらげのコリコリした食感の肉厚さには驚き。日持ちもよいので、お土産にもおすすめです。

南国きのこ苑



鹿児島市

日本一のおくらから生まれた、飲みやすい「おくら珈琲」。

指宿は、おくらの生産量日本一。しかし、おくらは成長が早く収穫が大変。収穫できなかつたものは規格外となります。そんな規格外のものから作られたのが、おくら珈琲。スッキリとした味わいで珈琲が苦手な方にもおすすめです。



出水市

太陽の力でおいしくなる、出水育ちの海苔。

出水市では、網を海面上で固定して日光を浴びさせる「支柱式」という方法で海苔を作っています。海の農薬である酸処理を行わないため、海の環境をしっかりと守りながら、サクッと甘いおいしい海苔を育てています。



霧島市

地域の食材をおいしく食べて、地域の農家さんへ還元。

地元霧島市の食材を中心としたメニューを楽しめる、日当山無垢食堂。調理で出た野菜くずは堆肥に変えて、地元の農家さんへ届けています。物産館では、マイボトル持参による「霧島のほうじ茶の無料給水」も行なっています。

工房てたか



出水天恵海苔



日当山無垢食堂



受け継がれてきた醤油の量り売り。  
昭和レトロな空間で  
店内に一步入ると、醤油のいい香りがふわっと漂つてくる吉永醸造店。創業は昭和3年。初代から醤油の量り売りをしており、それは今なお続いています。昔は焼酎の一升瓶を持ってくる人が多かったそうですが、最近は2リットルのペットボトルを持ってくる人が多いのだと。環境意識の高まりを受けて、近頃では若い人も増えたそうです。濃口醤油は3種類。淡口醤油は1種類。鹿児島の醤油は甘いですが、ただ甘いだけではなく、旨味のある甘さが特長です。甕壺から柄杓で注いでもらえるという、他では味わえない豊かで貴重な体験ができます。

鹿児島市



吉永醸造店



創業  
昭和三年

★1



吉  
ヨシビン

てるまに珈琲



奄美市名瀬幸町（奄美大島）

純国産のコーヒーと「自分焙煎体験」で  
コーヒーを飲む喜びを、改めて知る。

コーヒー栽培に最適とされるコーヒーベルトの北限に位置する奄美群島。名瀬幸町のコーヒー屋「てるまに珈琲」は、沖永良部島でコーヒー豆を栽培し、剪定や焙煎までこだわった純国産のコーヒーを、テイクアウト・イートインで提供しています。コーヒーを味わうだけではなく、好みに合わせてコーヒーを焙煎する「自分焙煎体験」を楽しむことも。体験を通じて栽培から提供までかかる期間や工数を知ると、コーヒーを飲む時間がより特別に感じられます。



★2



屋久島町（屋久島）

一つひとつのくんせい商品に、  
「もったいない」の愛がたっぷり

屋久島で水揚げされたトビウオなどの魚を、屋久島の桜の木で燻製にする、「くんせい屋 けい水産」。元漁師のオーナーが、漁で余った魚を捨てずにすむようにと考え、始めたそうです。手づくりの燻製室で、魚の鮮度をいかすため短時間でさっと燻していきます。やわらかくしっとりとした食感と、トビウオの旨味がぎゅっと凝縮されたおいしさ。捨てるはずの小骨などは、せんべいとして商品化し、トビウオを余すことなく使っています。燻す桜の木も、台風で倒れた木を有効活用。「もったいない」から生まれた数々の商品には、屋久島への愛が満ちています。



くんせい屋 けい水産



規格外のフルーツをつかった、  
女性ブルワーがつくるクラフトビール。

南大隅町



九州初の女性ブルワー（ビール醸造家）が営む「Honey Forest Brewing」。ご主人が趣味でニホンミツバチを育てていたこともあり、ハチミツを使って南大隅町の新しいお土産や立ち寄れる場所をつくりたいと考えたのが、きっかけだそうです。地元の特産品であるたんかんや辺塚だいだいなどで「規格外」とされたものを積極的に使っています。ハチミツとフルーツでビール感を出しながらも、苦みが苦手な人でもおいしく飲めるビール。店内では地元産のおつまみと一緒に楽しむことができます。フルーツの風味とハチミツの深みが、南国のおいしい時間を届けてくれます。



Honey Forest Brewing



★5  
海の幸「かんぱち」は、  
海にやさしい育て方でおいしくなる。  
垂水市

垂水市漁業協同組合のブランド養殖かんぱち「海の桜勘(おうかん)」。極上のかんぱちのおいしさの秘密は、餌にあります。地元垂水の無農薬の「お茶」と、焼酎づくりの過程で出る食品廃棄物の「焼酎粕」を配合させているのです。お茶を加えることできず鮮度が保たれるだけでなく、ビタミンEも増え、コレステロール含量が減ることが分かっています。さらに魚の臭みも減り、身質の透明感も増したそうです。この餌はペレット状に固めて与えることで、海水の汚染も少なく、海の環境保全にもつながっているのだとか。「海の桜勘」は、組合が運営する食堂で味わうことができます。



味処 海の桜勘



長島町  
麹の香りが運んでくれるのは、  
味噌のある温かな時間。

まるでジャムのような瓶やスイーツのようなクラフトボックス。ここに入っているのは、長島町でつくれられる無添加の味噌「cocoromiso」。冷蔵庫の隅っこにありがちな味噌をワクワクしながら使ってほしいという想いから、容器を考えたのだと。さらに、漁師でもある石元さんは、海洋プラスティックゴミを目の当たりにし、プラスティックを減らしたいという想いもあったのだそう。鹿児島の麹と九州産の裸麦、国内産の大豆と天然ミネラル塩でつくれた味噌は、はじめは麹の匂いが強く、やがて華やかさとコクがでてきます。ふるさとを思い出すような温かい味噌でつくるお味噌汁は格別です。



★6  
石元淳平醸造





丸池湧水（湧水町）

# 手にとつて 未来へつなぐ

「楽しい」だけじゃない、  
生物多様性を“考える”カードゲーム。

奄美市笠利町／名瀬（奄美大島）

多様な生物が共存する稀有な島として2021年に世界自然遺産に登録された奄美大島。原ハブ屋は、独自に進化した固有種や島外から入ってきた外来種など多くの生き物が生息するこの島で、1948年創業から毒蛇・ハブやその他の生物、人間の共生を、ハブ製品やグッズ、ショーを通じて観光客に伝えてきました。カードゲームだったら、大人も子どもも楽しみながら生物多様性を考えるきっかけになるかも。そんな願いが込められた「AMAMIAN MUTANT(アマミアン ミュータント)」は、島の在来種と外来種がモチーフのキャラクターで対戦するカードゲーム。ゲームに登場する生物を「自分で調べるんだ！」と呼びかけ、生き物について考えるきっかけをつくりています。お土産にもおすすめ。

原ハブ屋



志布志市

フードロス削減から  
生まれた、  
地元産のスピリッツ。

コロナ禍でレストランに卸せなくなった、志布志市の特産品「いちご」。行き場をなくしたいちごを使ったスピリッツを誕生させたのが、地元の若潮酒造です。「フードロス」と農家さんとの「フレンドシップ」の意味を込めて付けたネーミングは、「i spirits」。2020年の初年度はいちごのみでしたが、今では種類も増えて2023年には6種類に。材料はすべて大隅半島産。糖分ゼロで甘くない、大人の味を楽しめます。

若潮酒造



霧島市

素朴な味わいが魅力の  
郷土信仰玩具「鯛車」。

鹿児島屈指のパワースポット鹿児島神宮ゆかりの郷土信仰玩具「鯛車」。神話「山幸海幸」にちなみ、江戸時代から伝わる南国情緒豊かな色彩の玩具です。飾ると縁起が良いことから、今も子どもから大人まで広く愛されています。



鹿児島神宮





霧島市

伝統工芸品をもっと身近に!  
ふだん使いしたい錫器。



岩切美巧堂



300年続く薩摩藩ゆかりの錫細工を受け継ぎ、大正5年に創業した岩切美巧堂。今もなお、ほとんどが手作業でつくられています。記念品としての需要が多いですが、鋸びず、割れず、お手入れもしやすいので、日常使いとしてもオススメです。伝統を守りながらも挑戦を続け、このたび桜島溶岩をコーティングした虹色のタンブラーで県知事賞を受賞。時代が変わっても長く愛される錫器。体験もできるのでぜひその魅力に触れてみてはいかがでしょう。



鹿屋市

希少な種を守りながら、花岡胡椒を再び蘇らせる。

明治時代に町の基幹産業として栄えるも、戦争で廃れた唐辛子「花岡胡椒」。地元の青年会議所を中心に2015年から再生産を始めました。強い香りとまろやかな辛さが魅力です。今度こそ絶やさないよう、地域で大切に育てています。



瀬戸内町（奄美大島）

美しい海と職人技から生まれる  
100年以上続く、奄美育ちのパール。

1910年から始まった半円型の真珠・マベパールの養殖。「虹色の輝き」と呼ばれるきめ細やかな輝きと色彩が特長です。天然貝に頼らない人工採苗技術と丁寧な職人技で、5~6年もの時間をかけて育てています。



長島町

一升瓶をリサイクルして使う、  
環境にやさしい芋焼酎。

30年も前から焼酎の一升瓶をリサイクルして洗浄し、リユースしている長島研醸。鹿児島県内だけではなく熊本からも瓶を回収しています。芋焼酎「さつま島娘」は長島のみの限定販売。観光のお土産として島の活気につなげています。



いちき串木野市

若い力で、地元の特産品に  
新たな命を吹き込む。

いちき串木野市の特産品サワーポメロ。摘果で廃棄されるものから精油を抽出し、フレグランスとして誕生させたのは、なんと地元の高校生!「Le Ciel Fusée」という会社を起業し、廃棄される果物に新しい命を吹き込むアップサイクル活動に取り組んでいます。

花岡胡椒



奄美サウスシー  
&マベパール



長島研醸



ルシエル フュゼ





知名町（沖永良部島）

## 沖永良部島の自然や風景から生まれた「えらぶ色クレヨン」。

赤土やマンゴー、シマ桑にイカ墨。「えらぶ色クレヨン」は、沖永良部島にある9種類の天然資源や未利用資源、島の養蜂家から仕入れる蜜ろうで作られています。「自然そのままを楽しんでもらう」ことを大切に、使うのは自然由来の素材のみ。時間の経過とともに変化する色も、自然由来の素材だからこそできる楽しみ方です。使うたびに島の自然や風景を思い出す。そんな味わい深く、やさしい色合いのクレヨンはお土産にぴったり。



しまやどり



龍郷町（奄美大島）

## 職人技から生まれる、できたての黒糖を味わう。

奄美大島の特産、黒糖。龍郷町にある「水間黒糖製造工場」は、1985年創業から島内産さとうきびを使った黒糖をつくり続けています。黒糖づくりの作業は毎朝4時から始まり、工程のほとんどは手作業。絶妙な火加減で2時間かけて煮詰めることで、甘みが凝縮した黒糖ができるあります。その時々のさとうきびの糖度や煮詰める時間などで微妙に味が異なるのも楽しみ方の一つ。店頭には3種類の黒糖が並び、できたての黒糖が食べられます。



水間黒糖製造工場



見て、体験して、魅了される。  
1300年続く伝統文化「大島紬」。

1300年の歴史を誇る奄美大島の伝統的工芸品、本場奄美大島紬。泥染めという奄美固有の技法により、絹糸を黒へと染め上げ、1年もの月日をかけて手織りで反物に仕上げます。「奄美大島紬村・大島紬製造工場観光庭園」では大島紬の生産工程の見学や土産品の販売のほか、Tシャツなどへの泥染め体験も行っています。体験では職人が直接泥染めの指導をするため、熟練の技を間近で体感できます。シミや汚れのついた古着を持参して染め直して再利用するのもおすすめ。



沖永良部の伝統をつなぐ。  
島の自然を生かした「芭蕉布」織り。



糸芭蕉の茎からできる糸で織り上げられる芭蕉布。かつては暮らしの一部でしたが、時代の流れによって島から消えかけていました。芭蕉布を蘇らせたのは、大島紬の伝統工芸士である長谷川千代子さん。織維から美しい糸が現れた感動から芭蕉布を織り始めました。糸芭蕉を育てる畑仕事から、織維の採り出し、糸づくり、染色、織り上げまで、すべての工程が手作業。工房では芭蕉布の作品販売や織り体験が行われています。



唯一無二の魅力、「帖佐人形」。

姶良市

帖佐人形の歴史は古く、今から400年以上前にさかのぼります。当時、この地で焼き物をつくっていた朝鮮半島出身の職人たちが、ふるさとを想いながら犬の人形をつくったのが始まりと言われています。一度は廃れてしまった伝統を復興させ、今も一つひとつ手作業で作られている帖佐人形。赤や青、黄色などの鮮やかな色彩は大陸的で発色もよく、素朴な地元の土とよく馴染みます。今でも150年前の型が残っており、現役で使っているのだと。懐かしい味わいを大切にしながら、大手アパレル会社とコラボするなどの新しい風を取り入れつつ、長い伝統はこれからも受け継がれていきます。



伊佐市  
焼酎から豚を育てる！？  
地域の食品循環システム。



大口酒造



鹿児島県内には112の蔵元と2000を超える焼酎の銘柄があり、各地域の味わいや香りが人々を魅了しています。伊佐市大口にあるこの蔵元でも、焼酎づくりに恵まれた豊かな自然でおいしい芋焼酎をつくってきました。一方で焼酎づくりの際に排出される焼酎粕は、産業廃棄物となります。1日で最大130トンの焼酎粕を排出するこの蔵元では、地元の養豚業者と協力し、焼酎粕を豚の飼料として与える取組みを長年続けていて、今では伊佐「モブタ」（焼酎粕豚）というブランド豚になっています。本来捨てられるものを資源とする地域の食品循環システム。地域と環境へのやさしさに思いを馳せながら一杯味わってみてはいかがでしょうか。



つなぐ

特産品

★ 14

★ 13



大崎町

そのしとり感に驚き!  
肌にも海にもやさしい石鹼。

大崎町の雑貨屋「sunny」の店内でずらりと並んでいる石鹼たち。鹿児島や九州の素材を厳選し、保湿成分をたっぷりと含んでいます。こちらの石鹼は製法や材料を厳選するなど環境に配慮し、やがて自然に還る素材にこだわっています。その種類は豊富で、「桜島椿とシルクの石鹼」や「種子島赤米甘酒の石鹼」、「納豆の石鹼」など独創的。すべては、スキンケアも食べ物と同じように選ぶという理由からだそう。確かに、甘酒や納豆などの発酵食品は食品としても健康志向。肌にもいいのは当然と言えそうです。企画販売されている素敵なお一人との会話を楽しみながら、あなたの肌に合う石鹼を見つけてください。



sunny



開聞岳と茶畑 (南九州市)



西郷どんとツン（鹿児島市）

# あれあつて未来へつなぐ

温泉の蒸気がおいしさの秘密！  
天然かまど「スメ」。

指宿市



モクモクと湯気が立ち上がる指宿市の簾温泉。散策していると、何やら不思議な光景をあちこちで見かけます。これは、天然の温泉の地熱を利用した蒸しかまどで「スメ」と呼ばれるもの。各家庭の庭にあって、煮込み料理やふかし芋を作るなど生活の一部として使われています。「スメ」とは鹿児島弁で「煙がするも（こもる）」という意味。集落には共同で使えるスメがあり、まち歩きツアーに参加すると、地元ガイドと一緒にスメを使った体験もできます。地元の旬の野菜や卵を蒸すと、素材そのもののおいしさが引き立上、天然のミネラル効果で温かさも長持ち。環境にやさしく、そしておいしい。地域の人の温かさも沁みる旅に出会えます。

指宿観光 & 体験の会



屋久島町（屋久島）

樹齢千年をこえる  
屋久杉の命を感じる  
「箸作り体験」。

つなぐ  
体験  
Activity

屋久杉の魅力をたっぷりと感じられる、杉の舎「仙人村」。商品化に至らなかった屋久杉の一部をうまく利用した作品が並んでおり、工房の真ん中には、「木魂（こだま）」と命名された屋久杉の先端部が堂々と置かれています。屋久杉の魅力は、真っ直ぐではない「ゆらぎ」。このゆらぎがあるからこそ、いろんな魅力を表現できるのだそうです。深い森の中で千年以上生き続ける屋久杉でつくる「箸作り体験」では、まるで屋久杉と対話するような貴重な時間を過ごすことができます。

杉の舎「仙人村」



南大隅町

約4000種類の植物が育つ地で  
つくるあなただけの香り。

手つかずの自然が残る大隅半島の本土最南端の町で、肌と環境にやさしい化粧品をつくっている「ボタニカルファクトリー」。この近くで契約栽培、採取されたハーブ、農業廃棄物、規格外品なども利用しながら、自然由来



成分 100% の独自レシピでつくれるのは、スキンケアやヘアケア、地産アロマのフレグランスなど。廃校となつた校舎を活用し、手間ひまかけて商品づくりに向き合っています。フレグランスマーケットは要予約。約 30 種類のアロマから好きなものを組み合わせて、あなただけの香りをつくりませんか。

ボタニカルファクトリー



霧島市

## 薩摩切子のガラス廃材に もう一度輝きを。

美しいカットで人々を魅了する薩摩切子。本来なら器として愛されるはずのところ、基準に満たなかつた廃材を使い、アクセサリーなどに生まれ変わらせたのが、美の匠ガラス工房 弟子丸の「ecoKIRI」です。



屋久島町 (屋久島)

## 屋久島の森の思い出を 香りにのせて楽しむ。

屋久島の健康な森づくりへつなげたいという思いから、間伐した地杉を用いて香りを抽出している「やわら香」。店内では、白谷雲水峡などの山系から流れてくるお水で、アロマスプレーづくりを体験することができます。出来上がると、「made in Yakushima」



イヤリングやヘアゴム、ゴルフマーカーなど、新しい輝きを放つ一品に出会えます。また、自分だけのオリジナルを作ることができるカット体験も実施。世界に一つの「ecoKIRI」アクセサリーをあなたの手でつくりませんか。

美の匠 ガラス工房 弟子丸



知名町 (沖永良部島)

## 海の恵みを思い出に 「美ら玉作り体験」。

海辺で見つけた貝がらやシーグラスを使ってアクセサリーを作る、美ら玉作り体験。好きなパーツと組み合わせて世界に一つだけの美ら玉作りを楽しめます。室内開催のため曇りや雨の日に体験するのもおすすめです。



「体験を通じて島の自然の豊かさを知ってもらおう。」そんな思いから2017年に体験の提供をスタート。おきのえらぶ島観光協会の案内のと、地元の人だけが知るビーチを訪れる、ビーチコーミング付きのツアーも開催されています。

おきのえらぶ島観光協会



鹿児島市

## 桜島の火山灰が、 カラフルなアートに。

今も活発に噴火活動を続ける桜島。その火山灰を天からの贈り物と捉え、粘土と釉薬に混ぜて生み出されたのが、桜岳陶芸の「桜島焼」です。銀色に輝く光沢感が独特の魅力。窯元の屋上にどっさり



積もった火山灰はもちろん、庭先に咲いている花を燃やした灰も使い、「ここにあるものだけを使う」ことこだわっています。火山灰アート体験では、カラフルに色づけした灰で、自由にサンドアートを楽しめます。思い出に残る桜島土産としておすすめです。

やわら香



桜岳陶芸



# 日本一のかつお節の町で学ぶ、 昔ながらの製法と本格的なだしの引き方。

枕崎市



日本一のかつお節生産量を誇る、枕崎市。この地でおだしの魅力を世界に発信とともに、おだし教室も開催しています。おだし教室に参加すると、最初にかつお節工場の見学から始まります。かつおを切り落とした頭と内臓は捨てずに肥料として使われ、商品となるかつおの茹で汁も捨てずにめんつゆとなります。こうした循環はなんと 300 年前から始まっているというから驚きです。実際におだしの引き方も学ぶことができます。最高のだしを引くには、「時間と温度とやさしさ」。本格的なだしを一度味わうと、これから自分でつくる料理もぐっとレベルアップしそうです。



中原水産



荒平天神（鹿屋市）



# い う し よ に 未 來 へ つ な ぐ

屋久島町（屋久島）

集落在住の語り部が案内する、  
地元感たっぷりの里めぐり。

「縄文杉だけではない屋久島の魅力を知ってほしい」「高齢者や障がいのある人も楽しめて、地元も活性化させたい」。そんな思いから始まったのが、屋久島「里めぐり」です。屋久島には24の集落があり、そのうちの10集落ではエコツアーカーができます。このツアーでは1つの集落を2～3時間かけてのんびりと散策します。ガイドをする語り部は、その集落に住んでいる人。参加する人の趣味や思いに応じて、語り部が手づくりのツアーを企画してくれます。トークも参加者に合



わせて自由自在。集落の住人ならではの歴史や自然の話はもちろん、自宅の庭先のみかんをもぎってプレゼントしてくれるなど、ガイドブックには紹介されていない屋久島の自然と人々の共生を知ることで、参加者まで地元の人になったようなうれしい感覚を味わえます。

屋久島里めぐり推進協議会



与論町（与論島）

世界に誇る美しい海をこれからも。  
海岸清掃で“ブルー”を守る。

与論島の海はヨロンブルーと呼ばれ、世界有数の美しさを誇ります。この海を守るべく、2017年に住民有志のボランティア団体「海謝美（うんじやみ）」が発足。「海に感謝して美しくしよう」という思いのもと、天候の悪い日以外は毎朝6時半から1時間、海岸清掃をしています。当日の活動状況や翌日の活動場所をブログで毎日発信。地元民や移住者、観光客など誰でも参加できます。海洋ゴミをなくし、地球環境を守る。そんな未来を与論島で考えてみませんか。



海謝美（うんじやみ）



鹿児島市  
溶岩の合間にある集落をめぐり、  
新しい桜島を感じるツアー。

世界有数の活火山、桜島には4000人近く人々が暮らしています。噴火のイメージから、「なぜ人々は厳しい環境で暮らし続けるのだろう?」と疑問を持つかもしれません。桜島の恵みや防災への備えがあるから暮らしていけるのです。それを実感できるツアーがあります。ガイドと集落を巡ったり、ガイドとしか入ることのできない場所へ行ったりと、噴火や溶岩だけではない桜島がもたらす恵みや防災の備えについても知ることができます。地元の人々と出会い話ををする機会もあり、眺めているだけでは気づかない新しい桜島の魅力に気づくことでしょう。



桜島ジオサルク



世界遺産「西部林道」で、  
自然との共生にふれる旅。

屋久島町  
屋久島



屋久島と種子島の面積はほぼ同じですが、実は屋久島の山肌の面積を全部広げると、九州と同じくらいの面積になるといわれるほど山が連なる屋久島。世界遺産地区である「西部林道」は、手つかずの森を進むと野生の猿や鹿にも出会える確率が高いのが特長です。ガイドといっしょに、自然との共生や正しい知識を学びながら巡ることができます。車を降りて歩いてみると、もうそこは別世界。静かな森に溶け込み、自然の一部になることで、自然環境への意識もおのずと高まります。

ネイティブビジョン



奄美市住用町（奄美大島）

深呼吸しながら、認定ガイドと  
ゆっくり自然を観察する  
「<sup>やくがち</sup>役勝エコロード散策」。

世界自然遺産エリア内にある役勝エコロード。旧道化した県道で、豊かな自然環境に触れ合う場として「エコロード」と命名されました。散策体験では認定エコツアーガイドと一緒に観察しながら、奄美的な自然について学べます。すぐそばにある植物や生物が希少性の高いものであること多く、役勝川に生息する絶滅危惧種のリュウキュウアユなど、世界自然遺産登録の決め手となった生物多様性に触れられます。平坦な道をゆっくり歩くので、体力に自信がない方やファミリーにもおすすめ。

スローガイド奄美



与論町（与論島）

与論島の自然と伝統を  
未来へつなぐ、エコツアーガイドと巡る特別な時間。

この地域ならではの魅力にあふれる与論島。島の成り立ちや地形、自然、独特の祭り、琉球王国統治の歴史などをはじめ、SNSや本では知ることのできない情報が多くあります。そんな知られざる与論島に触れるには、島に住むガイドから楽しく学べる「与論島エコツアーガイド」がおすすめ。各テーマ専門の認定エコツアーガイドが解説・案内しながら、島の奥深い魅力を教えてくれます。島時間を過ごしながら自然や伝統への理解を深め、心を豊かにする旅へ。

ヨロン島観光協会



霧島市

木の香りや森の空気を全身  
に取り込む「森林セラピー」。

霧島の森の中を歩く森林セラピーは、なるべくゆっくり歩くのがポイントで、子どもから高齢者まで楽しむことができます。時間はおよそ2時間。木が放出する香り成分は、人間の皮膚から吸収されるため、リラクゼーション効果があるそうです。ちなみにヨーロッパでは病気になると「森に入ろう」と言われているのだと。歩きながらガイドに木や花のことを教えてもらったり、霧島錦江湾国立公園ならではの自然景観を眺めたり、とにかく急がずのんびり。森の恵みを自分の力にするセラピーです。

霧島森林セラピーガイドクラブ





トウマイ (与論町)

# つどつて未来へつなぐ



鹿屋市

大隅の食と人をつなぐ、  
ライフスタイルホテル。

古いビルをフルリノベした建物と新築した建物の2棟からなる、「KOTOBUKI HOTEL」。母体となるのは、畜産が盛んな大隅で飼料販売をメインに、カフェやデリカショップも出店する地元企業。「大隅に訪れるビジネスマンや旅行者、そして地元の人々がつながっていけるよう」という想いで誕生しました。部屋ごとに違うアート作品、ワーキングスペースやバーの雰囲気など、独特のデザインと心地よさが漂う空間です。ホテル1Fには花屋さん。暮らすように滞在できるよう、フローラベースを借りて部屋に飾ることもできるのだとか。さらにホテルの目の前には自社が運営するカフェも併設。隣にあるチーズ工房の自家製チーズや、鹿児島の食材をふんだんに使った朝食を楽しむことができます。



© KOTOBUKI HOTEL



枕崎市

どこを切り取っても絵になる、  
旧郵便局をリノベした  
カフェ&宿。

100年以上前に建てられ、1981年に閉局した地元の郵便局。内装をリノベして誕生したのが、「山猫瓶詰研究所」です。童話「注文の多い料理店」の山猫をイメージし、カフェとショップ、1日1組が宿泊できるお部屋もあります。元々は1棟貸しの宿泊施設にするつもりでしたが、地域の人たちも立ち寄れるように、現在のスタイルになったのだとか。カフェの人気メニューは、地元の食材をつかったマフィン。一歩入った瞬間から絵本の世界のような素敵な時間が始まります。



© 山猫瓶詰研究所



与論町（与論島）

豊かな自然の中で心身を  
癒しながら、島にやさしい  
滞在をする。



© プリシアリゾートヨロン

阿久根市  
建物自体が旅の目的地になるような、阿久根を感じるショッピング&ホステル。



⑥ イワシビル



阿久根の商店街にある一際目立つイワシビル。築 60 年ほどのビルをリノベして、ショップとカフェ、宿泊を兼ねた街のランドマークにしたのは、地元の水産加工業の会社。水産物の加工をはじめ、地域の食材に新しい付加価値をつけた商品を次々と生み出しています。1Fのショップには自社のオリジナル商品や阿久根の特産品が並び、3Fはホステル。漁船でつかわれる照明やリメイクした学校の椅子など、地域のものを大切に使っています。阿久根の旅の目的地になるような、心が豊かになれる空間です。



廃業した温泉旅館を引き継いだ、地元の老舗和洋菓子店の挑戦。

市比野温泉で 100 年以上の歴史を誇る老舗の「和洋菓子製造所弁天堂」。近隣の廃業した温泉旅館に移転して、新たに和洋菓子店と温泉旅館が一つになって生まれ変わりました。地域で昔からの店や宿が減り続ける中、地元の人からは「引き継いでくれてありがとう」と感謝の声が多く寄せられたそうです。現オーナーは 3 代目。祖父の代から続く和洋菓子づくりはもちろん、今後は地元のたまり場として活用できる空間づくりを目指していくのだと。ちなみに目の前で焼いてくれるどらやきは最高です。



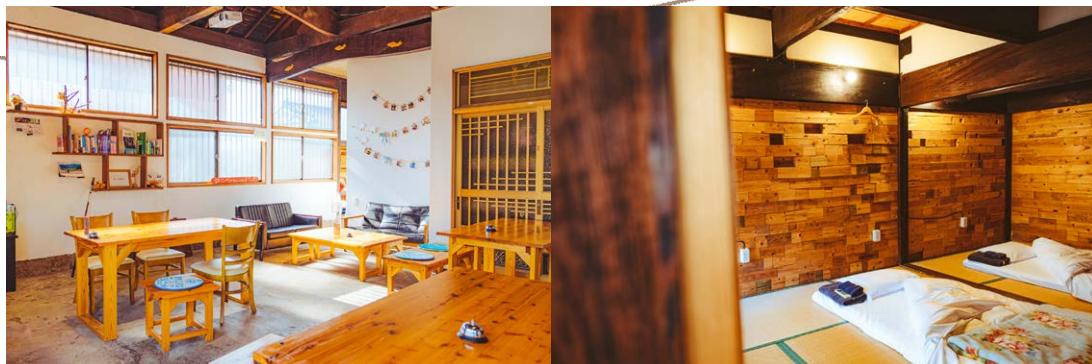
⑥ 湯宿弁天



錦江町

地元の人と旅人たちの人生がやさしく交差する時間。

大隅半島の錦江町で飼料などを売っていた築 90 年以上の建物をリノベし、地域おこし協力隊の移住者と地元の人たちが一緒につくった「よろっで」。鹿児島弁で「みんなで一緒に」という意味です。昼はカフェ、夜はバーとして営業し、地元の人たちが自然と集まる、ふれあいの場になっています。また建物の奥には宿泊施設があり、最南端の佐多岬を目指すバイク乗りや日本一周する旅人たちが訪れ、地元の人たちとの交流も。ここには、さまざまな人生が交差する豊かな時間が流れています。



⑥ 錦江町ゲストハウス よろっで



南九州市

人と地域をつなぐ  
ゲストハウスと  
だしとお茶を味わう店。

お茶どころ頴娃町の古民家をリノベして 1 棟貸しする宿「ふたつや」。SUP やガイドなどオーダーメイドの体験も対応しています。朝食と夕食はすぐ近くの「潮や」で。こちらも古民家をリノベしており、カフェ & ショップでは鹿児島のおいしいものを楽しめます。ここは元々にがりを販売していた商店。地元の人々から「塩屋」と呼ばれていたため呼び方は変えずに「いい朝を迎えてほしい」という願いを込めて「潮や」にしたのだと。古き良き時代のおもかげを味わえる旅をぜひどうぞ。

⑥ 集うをつくる宿 ふたつや





人や暮らし、自然の豊かさを発見する。  
島に暮らすような滞在で、

奄美市笠利町（奄美大島）



伝泊

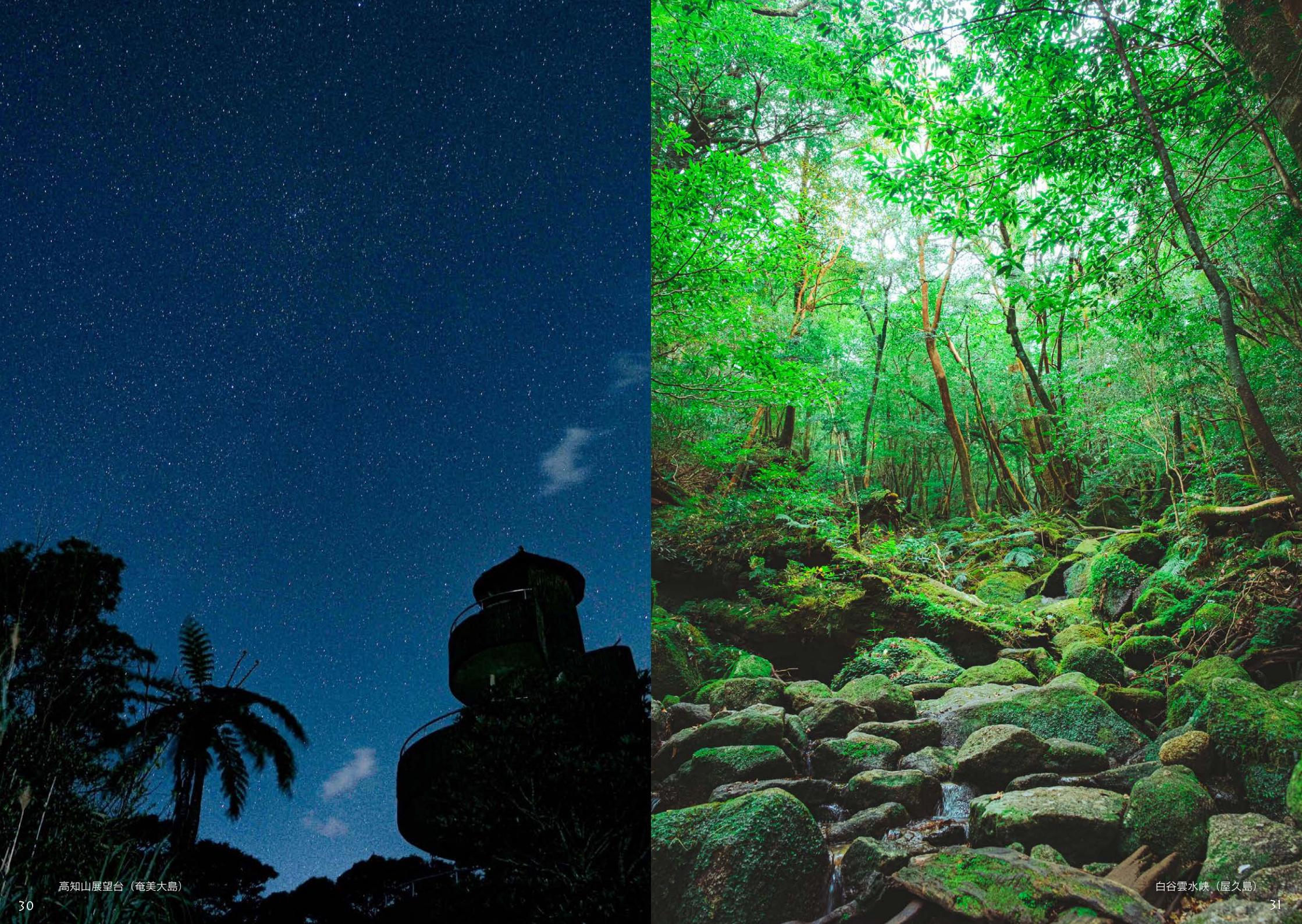


ワンジョビーチ（和泊町）



★ 22

★ 21



高知山展望台（奄美大島）

白谷雲水峽（屋久島）

## お好みでカスタマイズ! 自分で選ぶアクセスマップ

# 中薩摩

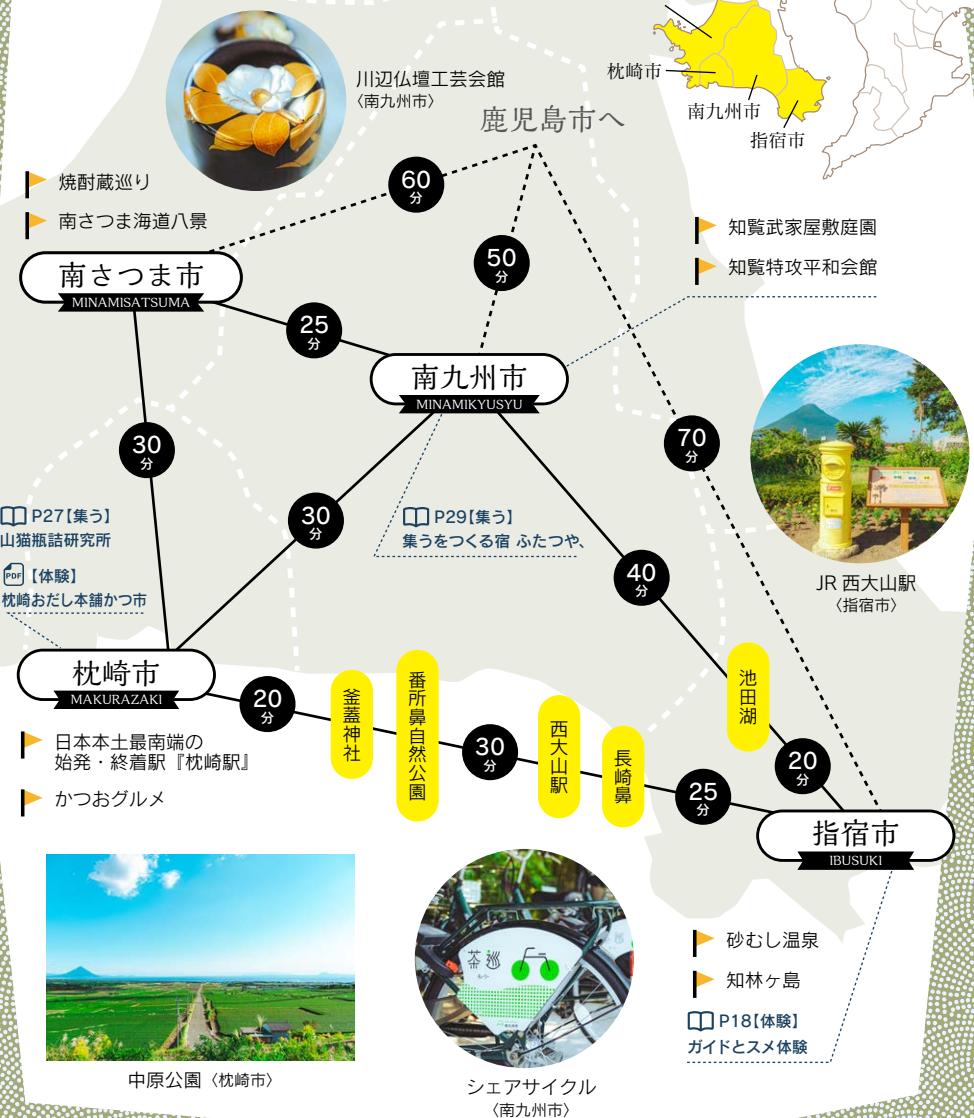
鹿児島市を中心に歴史、文化、自然そしてグルメがそろっています。いつもの旅に例えばガイドと一緒に桜島を歩いてみたり、定番グルメにプラスして地域のおすすめにチャレンジするとより旅の思い出が深まります。



## 好みでカスタマイズ! 自分で選ぶアクセスマップ

# 南薩摩

温暖な気候や自然に恵まれ育った新鮮な海の幸や農畜産物が豊富な南薩。日本百名山の一つであり、別名「薩摩富士」を称される開聞岳、広大な茶畑など唯一無二の絶景に癒されます。

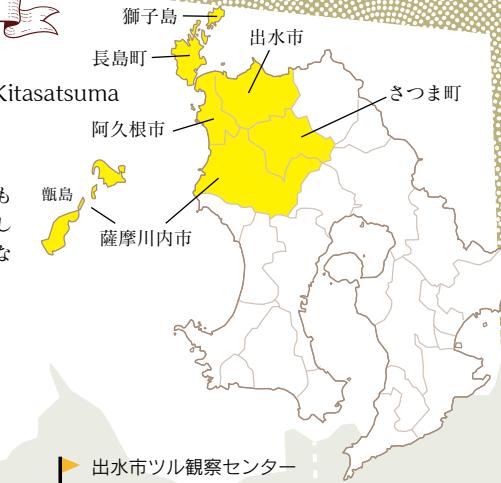


※移動時間は1時間に40kmの移動速度として算出しています。

好みでカスタマイズ!自分で選ぶアクセスマップ

# 北薩摩

東シナ海に面し海の幸に恵まれ、また温泉地としても名高い北薩地域では、地域の資源や歴史を活かした取り組みが盛んです。ちょっと足を延ばして気になる街や島を散策してみてはいかがでしょうか。



にぎわい交流館

阿久根駅  
(阿久根市)

脇本海水浴場

阿久根大島

P28【集う】イワシビル

P9【食】泰平食品

針尾公園

黒之瀬戸大橋

P15【特産】長島醸

★6【食】石元淳平醸造

出水市ツル観察センター

箱崎八幡神社

出水ツル渡来地  
(出水市)

紫尾温泉  
宮之城温泉  
薩摩びーどろ工芸

15分

30分

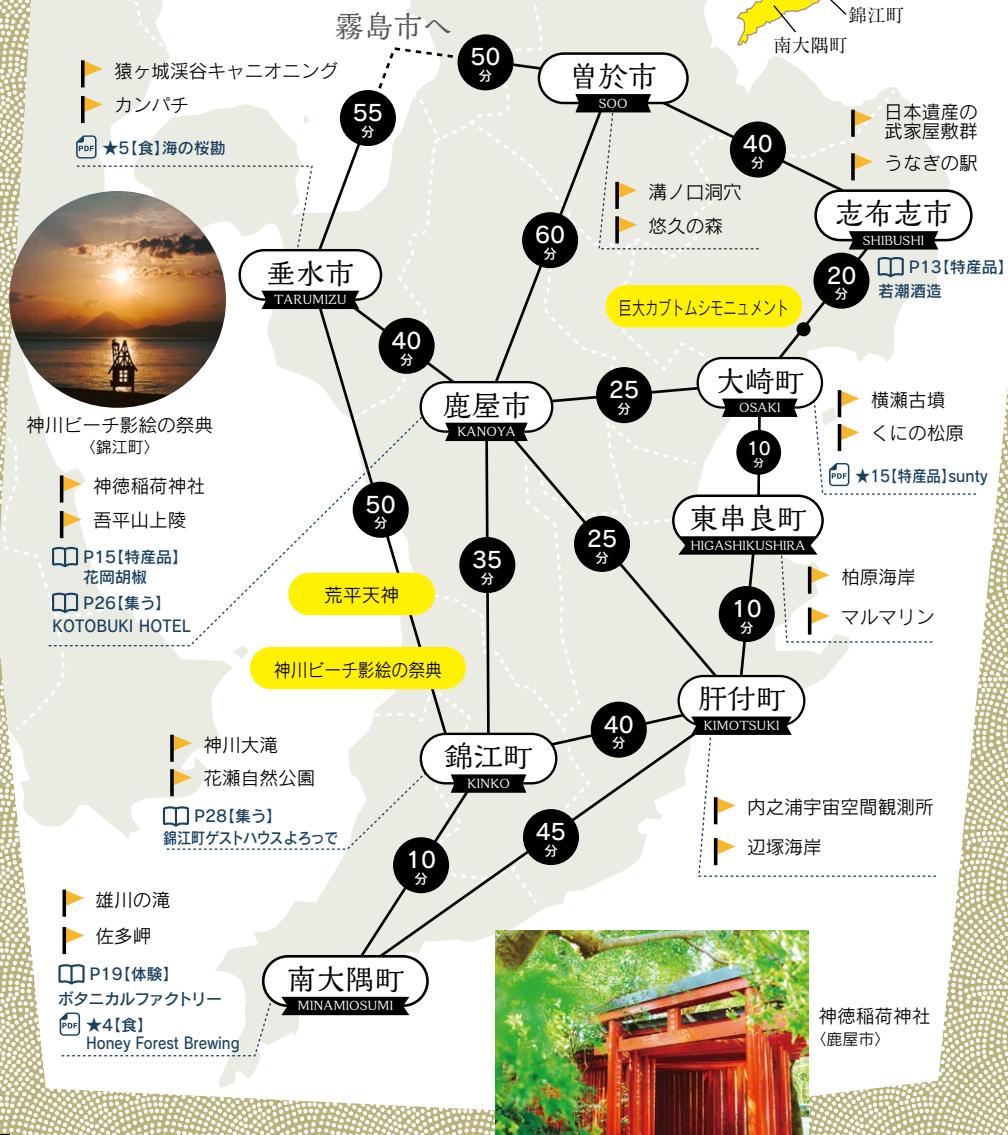
25分

50分

好みでカスタマイズ! 自分で選ぶアクセスマップ

# 大隅

大隅半島は「ダイナミック」という言葉がよく似合う豊かな自然に恵まれた地域。農業、漁業、畜産が盛んな地域ならではの見どころもたくさんです。本土最南端を目指す旅人と地域の人が語らう場も旅のおもしろさがあります。



好みでカスタマイズ! 自分で選ぶアクセスマップ

# 熊毛

世界的に特異な樹齢数千年のヤクスギに代表される世界自然遺産の島屋久島と日本最大で世界一美しいといわれるロケット発射場がある種子島。自然と共に生きる人々の暮らしも大きな魅力です。



屋久島環境文化村センター (屋久島町)

永田

永田いなか浜

P24 【自然】西部林道

大川の滝

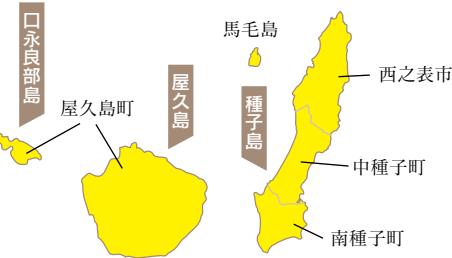
栗生

湯泊温泉

湯泊温泉 (屋久島町)

P10 【食】やくしま果鈴

白谷雲水峡 (屋久島町)



口永良部島へ

P19 【体験】仙人村

P22 【自然】屋久島里めぐり

種子島へ

種子島宇宙センター

千座の岩屋

P20 【体験】やわら香

屋久島空港

小瀬田

永田

宮之浦港

宮之浦岳

ヤクスギランド

安房港

千尋の滝

YAKUSHIMA BLESS

※移動時間は1時間に40kmの移動速度として算出しています。

好みでカスタマイズ!自分で選ぶアクセスマップ

# 大島

Oshima



日本一のガジュマル  
(和泊町 (沖永良部島))



ヨロン駅 (与論町 (与論島))

- エコツアー
- 闘牛

## 徳之島

TOKUNOSHIMA



天城町

伊仙町

和泊町

知名町

与論町



- P10【食】南国きのこ苑
- P21【体験】おきのえらぶ島観光協会
- ★9【特産品】えらぶ色クレヨン
- ★12【特産品】沖永良部芭蕉布

- ケイビング
- フーチャ

## 沖永良部島

OKINOERABU



ケイビング  
(知名町 (沖永良部島))

- P23【自然】海謝美(うんじやみ)
- P25【自然】ヨロン島観光協会
- P27【集う】ブリアリゾートヨロン

- 百合ヶ浜
- 星のソムリエ

## 与論島

YORON



エコツアーガイド  
(与論町 (与論島))

P9【食】あらば食堂 & 荒波のやどり

★10【特産品】水間黒糖製造工場

★11【特産品】大島紬村

鹿児島空港へ



鶏飯



ハートロック(龍郷町(奄美大島))



奄美大島世界遺産センター(奄美市住用町(奄美大島))



沖永良部芭蕉布会館(知名町(沖永良部島))



フーチャ(和泊町(沖永良部島))

※移動時間は1時間に40kmの移動速度として算出しています。

つなぐ、  
つむぐ、  
鹿児島 旅



## 南の宝箱 鹿児島



鹿児島県観光サイト  
かごしまの旅

いつもの旅に SDGs の視点を



2つの世界自然遺産



霧島錦江湾国立公園

発行元

観光かごしま大キャンペーン推進協議会  
(事務局: 公益社団法人鹿児島県観光連盟)

発行日 2023年3月(第3版 2025年3月)

撮影: 藤井音凜

制作・編集: 有限会社アドバンテージ



古紙配合率 60% 再生紙を使用 環境に優しい植物油インク使用

